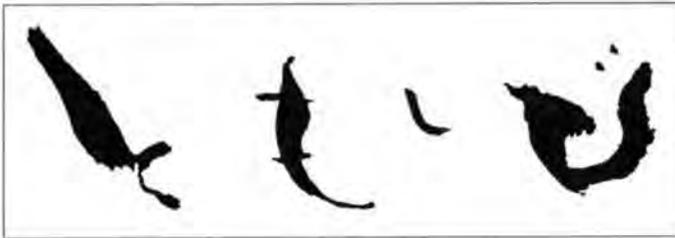


大学婦人協会東京支部

2002.7  
第32号

- ・新支部長挨拶
- ・東京支部総会報告
- ・記念講演「この頃の話」山田太一氏

新支部長挨拶  
「さわやかに  
バリアフリーの心で」

東京支部長 三浦由紀子

四月二十日、年  
度が改ま  
つてもな  
お、昨年  
の東京で  
の通常総会開催時のパワーを温存した十五名の委員と共に、八名の新委員を迎え、新たなチームとして発足いたしました。

責任の重さを痛感するばかりですが、あの日、市ヶ谷の堤の新緑を渡っていた風のように爽やかなチーム作りに努め、初めて東京支部の催しに参加させていただいた時の思い（「バリア感」を忘れずに、会員の皆様と共に歩んで行きたいと思えます。

さて、「ともしび」今号には支部委員会の係の仕事やサークルが詳しく紹介されており、各係は活発に支部を支え、サークル活動も、楽しんで心豊かに高めあったりしながら、究極はJAUWの事業の四本柱の一つである奨学金贈呈へと繋がる活動をしております。小さな協力が



東京支部長 三浦由紀子

実を結ぶ姿は、新春の集いにおける国内奨学金贈呈式（本部、支部共催）で実感できることと思えます。このような会に参加なさることも、心にかけているバリアを払拭する良いきっかけになると思います。サークルも門戸を広げております。どうぞお問い合わせください。

今後二年間のJAUW全国セミナーのテーマは、IFUWの方針を受け、「女性と情報社会―その光と影―」となっております。本部各委員会の多くのメンバーは早速、このテーマにそった調査研究に取り組みます。支部会員の皆様にはアンケート調査、その他へのご協力をお願いいたします。

また、東京支部は各界で研鑽を積まれた方がたをお迎えし、講演会を催したり、見学会を企画して錯綜する「情報」(マスメディアによる場合も)の渦の中で右往左往してしまいがちな私たちに、何らかの方向性を示していただいたり、自ら見いだせたりすることを期待しております。

おひとりでもお友達同志でも気兼ねなく東京支部の企画にご参加くださいませ。委員一同、さわやかにバリアをとり払い、お待ちしております。

## 東京支部総会報告

書記 岩田 玲子

二〇〇二年度東京支部総会は、四月二〇日(土)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催された。

支部会員数五十二名中、総出席者数一九名、有効委任状二三五通で総会は成立した。

坂上支部長の挨拶に続き議事に入り、二〇〇一年度の事業報告、決算報告がされた。次いで二〇〇二年度事業計画案、予算案が審議され、ペイオフに伴い暫定的に定期預金から普通預金へ切り替えたこと、会員数に合わせ会費収入を見直したことが併せて承認された。

新役員・委員が承認、紹介されて、三浦新支部長が新年度に向けた抱負を語られ、議事は終了した。

続いて今井けい新JAUW会長から支部会員への励ましの言葉をいただいた。最後にJAUWの各委員会の委員長が活動内容の説明に立ち、理解、協力を求め総会は終了した。

記念講演は、脚本家山田太一氏の「この頃の話」という演題で行われた。心暖まる身近な話題を通し大切なものは何かを考えさせられる貴重なお話であった。

## 2001年度(社)大学婦人協会東京支部決算報告書

## 2002年度予算

(2001.4.1~2002.3.31)

2002/4/1~2003/3/31

## 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 会費収入	1,500,000	1,434,000	-66,000	478口	1,395,000	465口
II 基本財産利息収入	15,000	9,201	-5,799		1,000	
III 運用財産利息収入	1,000	306	-694		400	
IV 寄付収入	300,000	358,637	58,637	パザーサークル講演会一般参加費 他	300,000	パザーサークル講演会一般参加費 他
V 雑収入	92,437	92,437	0	入会還付金 賛助会員還付金 他	40,800	入会還付金、賛助会員還付金 他
A 当期収入合計	1,908,437	1,894,581	-13,856		1,737,200	
B 前期繰越金	821,465	821,465	0		873,740	
C 収入合計(A+B)	2,729,902	2,716,046	-13,856		2,610,940	

## 支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 管理費	1,060,000	1,032,610	-27,390		957,200	
(1) 備品費	20,000	0	-20,000		10,000	
(2) 消耗品費	140,000	108,230	-31,770	コピー代 用紙 他	110,000	コピー代、用紙、他
(3) 印刷製本費	30,000	36,000	6,000	支部のお知らせ 封筒 他	30,000	支部お知らせ 封筒 他
(4) 通信費	320,000	347,985	27,985	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他	327,200	支部お知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交通費	70,000	62,500	-7,500		70,000	
(6) 事務所費	120,000	120,000	0	本部へ分担金	120,000	本部へ分担金
(7) 事務手当	360,000	357,895	-2,105	職員給料一部負担 他	290,000	職員給料一部負担
II 運営費	130,000	89,921	-40,079		110,000	
(1) 総会費	70,000	49,896	-20,104	会場費 他	70,000	会場費 菓子代 他
(2) 委員会費	60,000	40,025	-19,975		40,000	
III 事業費	750,000	719,775	-30,225		700,000	
(1) 一般事業費	650,000	619,775	-30,225	ともしび(2回)講演会 寄付 他	600,000	ともしび(2回)講演会 寄付 他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金寄付	100,000	国内奨学金寄付
IV 雑費	20,000	0	-20,000		10,000	
V 予備費	20,000	0	-20,000		10,000	
D 当期支出合計	1,980,000	1,842,306	-137,694		1,787,200	
E 当期収支差額(A-D)	-71,563	52,275	123,838		-50,000	
F 次期繰越金(C-D)	749,902	873,740	123,838		823,740	

基本財産状況: 貸付信託 ¥1,300,000 中央三井信託銀行新宿西口支店  
普通預金 ¥3,060,000 中央三井信託銀行新宿西口支店  
運用財産状況: 繰越金 普通預金 ¥859,236 中央三井信託銀行新宿西口支店  
現金 ¥14,514

会計 小池 朋子 小坂 順子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており間違いないことを証明いたします。

会計監査 高井敬子 比留間淑乃(印省略)

2002年4月16日

会計監査  
(五十音順)・印 新役員、委員

・坂上栄美子(大女)

・高井敬子(聖)

・渡辺加代(聖)

・吉原雅子(日女)

・森川淳子(茶)

・三浦久子(大女)

・細田照子(実)

・藤平昌子(茶)

・福田満代(奈女)

・福田文子(早)

・長谷川千恵子(津)

・端本和子(日本)

・中平玲子(昭女)

・佐々木澄子(東女)

・後藤晶子(神女)

・紅林みのり(大女)

・奥山ふみ子(日女)

・遠藤理枝(奈女)

・阿部裕子(聖)

・小池朋子(津)

・河井尚子(東女)

・片柳洋子(大女)

・岩田玲子(武蔵音)

・富士仁三代(奈女)

・加藤百合子(実)

・三浦由紀子(茶)

・支部長

・副支部長

書記

会計

委員

二〇〇二年度役員・委員名簿

大学婦人協会東京支部

記念講演(02・4・20)

## 「この頃の話」

講師 山田 太一氏



山田太一氏は、浅草生まれの六十八才。最近、年齢の面白さを日々感じているとおっしゃるシャイな創作人である。失ったものがあると同時に、得るものがある……と、年齢ことの面白さを感じ続けることの多い毎日を過ごされているとのこと。

今回は、ご執筆の「親ができるのはほんの少しばかりのこと」(新潮文庫)をもとに、親子についてのご講演を賜った。以下、お話の趣旨をご紹介させていただきます。

親が自分の子供に影響をあたえる部分はその労力の大きさのわりには少ない。子供は、生まれた時点で、すでに個性、特性、宿命を背負っていて親が左右できる範囲は意外に少なく、それを過大に考えるのはむしろ親の傲慢であると思える。

いま母親が子供を育てる過程で大きなストレスになっているのは、社会の価値観の経済第一主義だ。将来「稼ぐ」ことができる子になれるかどうか? という不安がよけいなことを強い、不自然にしている。

例えばテレビの世界でも、作品の質の善し悪しよりも、視聴率が総てを左右している。視聴率が局の収入と連動するためだ。視聴率が発表される前に、局の人に作品の感想を尋ねても曖昧な返事しか返ってこない。局の人は本音をしゃべることを警戒している。そして視聴率が高ければ良い作品、低ければ失敗作ということになる。そんな価値観の支配から逃げたいと思っている人は多い。

しかし、いまでは居酒屋でさえ仕事仲間と本音はいえない。いったことと足を引っ張られる。それが「厳しい社会」だと言うようなことになっている。そういう社会は切実に逃げ場(アジール)を求めていると思う。

そして、いま社会の価値観から、わずかに逃げられる場所は家族である。家族も、夫婦は、次第に「アジール」の力を失ってきている。すると、親子に、なにか法や社会の価値観の

及ばない「アジール」を求めるといふことはないか。

楚の高官、葉公が孔子にこのような話を披露した。

「私の領内に正直一途の者がいて、父親が羊をごまかして自分のものにしてしまいました。子供はそれを黙っていられず、役所に知らせたのです」

すると孔子は短い思案をしたあと、

「なるほど彼は正直者です。しかし親子の関係となると問題です。

私の故郷では親は子をかばい、子は親をかばう。本来、罪をかばったり、隠すことはいけないことですが、親と子の本当の情愛の自然な形を見ると、これも正直者と言えましょう」

しかし現実にはそのような親も少なくなってきた。

「個」は、ますますそれぞれ孤立して、強く煮詰まってきた。「個」は逃げ場所を失いつつある。

「アジール」としての親子、夫婦を「愚かな」というように一笑に付す時代ではなくなっていると思う。

言葉は親から子に伝承される。親の使う言葉が子供は避けようもなく受け継ぐ。言葉は生まれたときから

日々繰り返して、その中にいくらか自分を込め練習されている。

河野多恵子氏が、著書の中で、小説は他の芸術と違って突然プロになる人がいるといっている。それは、実は突然ではなく、言葉は生まれた頃から使い続けているから可能なのだと。言葉を使うということは過去の財産を使うということだ。私たちは、そのように過去に負っている。

今の社会は、あまりにもつぎつぎと古いものを切り捨てテクノロジー万端で新しいものを吸収することに力を注いでいる。それは本当にリアルなことなのだろうか。

人間の人生は不平等、不公平なもので、負けた人は内心、どうしようもない悲しみを引き摺っている。いまの社会は、そういう人に決して寛大ではない。むしろ残酷である。

いつの時代からか日本人は不幸を悲しみ、嘆くような物語を嫌いなようになってしまった。だから成功者の明るい成功物語は好かれるが、敗北の悲しみには光を当てるのが少なくなくなった。こんな社会がいいわけがない。せめて家族は風潮に逆らって、敗北したものを裁かず、その敗北に共感し、涙する存在でありたいと思う。

(田嶋 初美)

## 第45回通常総会報告

前副支部長 松本 佳子

全国総会は、4月13日から神戸で開催された。去年の東京総会では、桜に雪がちらついていたが、会期が2週間おそい今年、ポルトアイランドはあふれるような新緑の中に高層ビルが林立し、7年前の大震災のあととは見えない。初日は、評議員会、支部長懇談会に続いて懇親会が開かれた。刻々と色合いを深める神戸港の夜景を眺めながら会食。美しい民族衣装のチベットの声楽家バイマー・ヤンジンさんの歌とトークを楽しむ。

翌日の総会は、26支部、229名（東京支部から67名）が出席。山本会長を議長に、例年どおり、報告・審議・懇談が行われた。今年も、会長以下役員・監事の交替の年。新役員の承認と紹介があり、新会長には、今井けいさんが就任された。

懇談も活発にすすめられ、とくに



賛助会員規定については、IFUWの会員資格とのかねあいから、青木怜子IFUW会長の発言もあり、課題が残された。あらたに情報委員会が設置されることになった。

その夜のレクチャーでは、会員の方々の大震災体験談を聞いた。復興めざましい神戸だが、心の傷は消えはしない。樋口支部長のことばにも、深い思いがあふれていた。行き届いた神戸支部の皆さまのご配慮に感謝している。

（次期通常総会の開催地は仙台です。）

## 神戸支部主催

## （姫路城コース）

四月一五日朝九時、薄曇りのなかを、東京、愛知、新潟、大阪からの八名に対し、神戸支部から一名という頼もしいご案内が付き、初めの見学先、灘菊酒造に向かう。

約一時間後、灘菊に到着。川石雅也氏の説明で、酒米がお酒になるまでの工程を見学し、酒蔵だった食堂で、珍しい酒蔵料理のお昼を頂く。

バスに戻って約一〇分、目指す姫路城の威容が新緑の間に見えてきた。

シルバーガイドの川島氏の案内に



より名城に入る。千姫の豪華な暮らしぶりを残す一方、いかに敵襲に備えたかを物語る構造を見る。敵を迷路に誘い込み、凹凸のある暗い廊下で躓かせ、段差の異なる狭い急階段などなどで苦しめるべく、一六〇〇

年代の築城当時からあらゆる人知と工法を駆使して増築を重ねてきた堅固な城である。幸い、戦歴をもたず戦災・震災をも被らず、今日芸術的にも高く評価されて世界遺産に登録されている。綱に縋ったりしてこわごわ歩いた我々は、お互いに「来てよかった」を繰り返して、感激した。外に出て城を振り返ると、複雑極まりない設計が頷けるように大天守・小天守が美しく重なり、甲冑を着けた武士が床机に腰をおろしているという威厳のある姿が望まれた。

神戸支部の入念なご準備に、心か

ら感謝して解散した。

（五味 澄子）

## （淡路島コース）

四月十五日、明石海峡大橋を渡って、道の駅「あわじ」へ。春の息吹きも心地よく、大橋の美しさを満喫。

次の楽しみは、淡路人形浄瑠璃館。車窓は、一面濃い緑色の玉ねぎ畑。

名産には、玉ねぎ煎餅、パイ、焼酒、漬物等々、玉ねぎバラエティーに驚くことしきり。

館では、「傾城阿波鳴門順礼歌の段」を観劇。義太夫による情感あふれる語りど、重々しく響く三味線による伴奏、その調べの中、哀歎の間模様を生き生きと動き描く人形の美しさ。しみじみと伝統文化に触れたことでした。（次頁下段につづく）



講演 (02・5・20)

## 「21世紀の女性の生き方」

講師 水島 広子氏



精神科  
医として  
心を病む  
思春期の  
子供たち  
に接して

いた水島広子氏は、民主党の女性候補者公募の広告を見て応募し、「子供達が健康な心を持って成長できる社会を作ろう」と訴えて見事当選され、衆議院議員として活躍されている。

自身も四歳の長女と八ヶ月の長男の子育て真最中の水島氏は、「三歳児神話・子供が三歳までは母親が傍にいた方がよい」に囚われ仕事を辞めざるをえなかった母親が、そのストレスから子供を虐待した例などを紹介し、親が安定した精神状態であることの方が子供という時間の長さより大切であると説かれた。

また、女性には良き母親像が押しつけられる一方、男性には男らしく仕事人間であることが要求され、その結果過労死や自殺に追いこまれていく、ジェンダーの弊害も指摘された。一人一人がそれぞれの価値観や

個人差に応じて、仕事と生活のバランスをとって多様に生きていけるようになれば、日本の社会はさぞ明るくなることであろう。

話題はさらに、女性同士の足のひっぱり合いの問題や、氏が力を入れていた選択的夫婦別姓法案にも及んだ。

水島氏のしなやかな生き方は、21世紀の女性の生き方のまさしく手本でもあり、理想でもある。丸々と太った愛息の笑顔の写真は、それを十分に物語り、私達に明日への希望と勇気を与えてくれたのだった。

講演 (02・6・15)

(小池 朋子)

## 「がん治療の現場から」

講師 尾形 正方氏



依然として我が国の死亡率第一を続けている癌について

て尾形正方先生(結核予防会・複十字病院院長)から癌治療のご講演がありました。先生のご専門は消化器外科で、とくに大腸癌を中心とした癌治療の最前線のお話をとても分か

りやすく伺うことができました。

大腸癌は近年ことに増加傾向が著しく、早期発見、早期治療が大切で、そのためには癌検診は重要で、ほかの癌に比べ検診の有効性が高いということです。

大腸ポリープと癌の関係についても大腸ポリープの存在は癌化というだけでなく、癌になりやすいという指標と考えられるが、五ミリ以下のポリープは癌になる可能性も、癌が含まれる可能性も低いことが分かってきたので、内視鏡的切除より経過観察でよいそうです。

また、大腸癌は食事との関係が深い癌で食事内容に注意することで大腸癌の発生を大分減らすことができようです。とくに食物繊維の摂取が大腸癌の予防に効果があり、食事と同時に日頃から適度の運動を心掛けることが大切とのことでした。

癌がどのようにして発生するか、その原因も次第に明らかになり、遺伝子の異常が指摘されており、さまざまな癌で、がん遺伝子とがん抑制遺伝子が関与していることが解明されてきており、お話を伺っているうち近い将来癌は怖くない病気になるのではと心強く思えてきました。

(加藤百合子)

(前頁下段より)

いよいよ渦潮の鳴門海峡へ。幸いにも大潮時である十三時三十分、福良港から渦潮クルージング「咸臨丸」に乗船。潮の干満によって瀬戸内海と紀伊水道に水位の落差ができる為、激しい潮流が起ること。またこの海峡の海底が複雑な地形をしている為に、上下にも潮の流れが起きるとのこと。両相俟って轟音をあげながら大小無数の渦が生じ、さながら大きな洗濯機が廻っている、それもそここに、といった有様でした。間近でその迫力ある渦潮の神秘を、深い感動とともに体験したのです。

伝統芸能にも接し、何より島の豊かな自然に触れて、自然保護や環境に対する関心を新たにするといい、有意義な一日でした。

(堀口 裕子)



## 「春の紀行と催物」 「脚力を鍛えて」

### 楽しい京都の旅を」

(源氏物語を読む会(Ⅱ)主催)

入会以来ずっと楽しみにしていた京都の旅は、三日間共天候に恵まれ、行く先々では満開の桜に迎えられて、講師が準備して下さった詳しい資料と事前のレクチャー、又京都支部の方々の御尽力のおかげで、現地での説明つき見学、特別参拝等々、とても有意義で楽しい旅を満喫することができた。

今回訪れた場所は私にとっては初めての所が多かった為、感動もひとしお、特に現在「源氏」を読みながらのライブ感覚は、一層イマジネーションが膨らみ、各地で物語とクロスさせながらの見学は最高だった。北山、高雄のコースはアップダウンが多く、特に鞍馬山の山登りと神護寺の石段は、人並み以上に自身に荷を負っている私には、重力に逆らう行為は厳しく、現在週一のアクアビクスを二回に増やさねばと決意。今までは、体力のある内にヨーロッパ旅行をと、十数年来地球の西方に心が向いていたが、これは大きな誤りであることに気付かされた。体力

のある内に、国内の古寺巡礼をと心に誓った。

秋の高雄には是非再来をと。

京都には美しい仏像が多く、とりわけ今回の旅で出会

った仏像で私の中のベストスリーは、東寺の講堂の中の帝釈天、清涼寺の「光源氏」のおもかげを伝えるとも言われる阿弥陀三尊、願徳寺の薬師瑠璃光如来の三体で、特に貞観彫刻の美しい帝釈天の前ではしばし釘づけになった。

山に囲まれ、美しい自然背景の中に存在する寺社や町屋の静かなたたずまいと、バスの車窓から眺めた麓の波は、東京ではあまり見かけなくなっているせいも、憧れにも似た気持ちになった。

三日間の旅で、仲間とすっかり打ち分け、これからもより楽しい会になる事を確信、誰も欠けることなく完読出来ることを心から願った。

(横田 雅子)

## 「盲導犬エリーと

### 富弘美術館へ」

新緑と深緑の織りなす五月、福祉委員会主催で富弘美術館に向った。車椅子の殿岡さん、アイメイトと一緒にの三村さんご夫妻、白杖の宮崎さんも一緒に一緒した。

車椅子対応の観光用都バスで、高速度道路のSA「寄居」ではトイレの直前に駐車することができた。バスからわたらせ渓谷鉄道に乗りかえ、相老から神戸までの45分間、のどかな電車の旅を味わった。ある駅舎に「ゆ」ののれん、温泉に入れるらしい。目ざす富弘美術館は、東村のロケーションに融和して美しい。広い展示室にたくさんさんの詩や絵が、大小とりまぜて飾られ、みな感動するものばかりだった。



停年退職するエリーに「身体障害者補助犬法」成立のニュースが入ってきた。介

(廣田 貞子)

## 日韓雅楽の交流

五月八日「日韓宮中音楽交流演奏会」が国立劇場大劇場で催された。

これは二〇〇二年日韓国民交流記念事業として開催されたものだが、今年はまだ、サッカー・ワールドカップも日本と韓国の共同開催で行われた。この記念すべき年に演奏されたのは、実に雅やかな王朝絵巻の再現であった。

曲目は、宮内庁式部職楽部による雅楽「陵王」「納曾利」など、JAUWの横浜国際会議で私達も楽しんだものもあり感慨もひとしおだった。

一方、韓国の宮中音楽も旋律が切れ目なく続き、日本の雅楽との共通性も感じられたが、「剛」と「柔」が対照的に表れる韓国独自のもので味わい深かった。ユネスコの世界遺産としても登録された「宗廟祭禮樂」は、その楽人の多さと装束の鮮やか色に目をうばわれた。

この雅楽鑑賞は、「留学生と日本文化を学ぶ会」で企画され、留学生9名、協力会員49名が参加した。また、韓国の出演者に丁寧にお声をかけられる両陛下を拝見する機会も得られ忘れられない夕べとなった。

(福田 文子)

## 今年度からの新委員

“どうぞよろしく”

会員委員会に入り二年間、多くの方々と交流させていただきました。男女差別に加えて、同性差別も多くなり、社会はますます複雑化しています。皆が報われ、力づけられる社会を願い、東京支部での出会いを楽しみにしています。

後藤晶子（神女）

昨年より社会福祉委員会の方で厄介をかけていましたが、この度、東京支部でお世話になることになりました。皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

中平玲子（昭女）

素晴らしい諸先輩の中に参加させていただきまします。

何もわかりませんが、皆様に色々とお教えていただきながらついていきたいと思っております。

端本和子（日本）

源氏物語の会に入れていただいて約一年。恩恵を受けるばかりでなく当協会のお仕事を何かお手伝いできればとお引き受け致しました。皆様のご指導のもと、楽しく有意義に活動できるよう願っております。

長谷川千恵子（津）

魅力的な企画にさそわれて入会いたしました。多くのことを学べる場を得られたことをうれしく思います。

また新たな人や、ものとの出会いを楽しみにしております。

藤平昌子（茶）

三十年位前に入会を勧められましたが、そのままになってしまい、何年前より又数名の方々よりお誘いを受けました。これも何かのご縁なのかと今回入会させていただく事になりました。何もわからず不安もございしますが、ステキな皆様との新しい出会いを楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

細田照子（実）

四月から皆様のお仲間に入れていただきました。これも何かのご縁かと思えます。先輩方のご指導のもと、少しでもお役に立てましたら幸いです。ごさいます。

森川淳子（茶）

おさそいをいただき入会させていただきました。総会に伺い、偶然先輩にお目にかかり、とても身近に感じてまいりました。皆様と共に楽しく活動ができたらと思います。どうぞよろしく願います。

渡辺加代（聖）

## 支部チーフからの

メッセージ

○会員・ホームページ係

支部活動を支えている会員、及び賛助会員の名簿管理、会報、お知らせ、事務連絡などの発送用の宛名シールの作成、支部のホームページの更新などを担当します。本部の会員委員会や事務所の鈴木さんと連携しながら、正確な名簿データ作りを目指しておりますので、変更などは早急に支部までご連絡ください。

（チーフ 遠藤理枝）

○講座・見学係

本年度は、国会議員、水島広子氏、結核予防会・複十字病院院長、尾形正方氏の講演も無事終了、七月には朝倉彫塑館の見学会を計画し、学芸員の方にご案内していただくことになっていきます。

秋以降もいろいろ講演会を催し、

会員の親睦をはかりたいと存じますので、ご友人もお誘い合せの上、ぜひご参加ください。

（チーフ 佐々木澄子）

○バザー係

会員の皆様にはいつもご協力をいただきありがとうございます。目新しいもの、ちょっとお洒落な

もの、格安なものなど取り揃えて、皆様にお楽しみいただけるようなバザーにしたいと、係一同考えております。

また、その収益が国内奨学金や支部の活動に少しでもお役に立てればと願っております。何か可愛いものをお作りいただける方、新しい商品や良い仕入先をご存知の方、ぜひバザー係まで情報をお寄せください。

（チーフ 紅林みのり）

○サークル係

会員相互の親睦を図るために、東京支部には、いま六つのサークルがあります。それぞれのサークルにつきましましては、サークル紹介の欄をご覧ください。

どのサークルも楽しく活発に活動しています。会員の皆様のご入会を、お待ちしております。

（チーフ 加藤百合子）

○“ともしび”係

東京支部の活動の報告、お知らせを載せて年二回発行しています。

今後の活動の指針となるようなご意見を、会員の皆様からいただけたらと“声のひろば”の欄もあります。建設的なご意見、ご感想を“ともしび”係までお寄せください。

（チーフ 福田文子）

事業報告・予定

サークル紹介

4・13 JAUW

4・20 第45回通常総会(於・神戸)

4・20 東京支部総会

記念講演「この頃の話」

講師 山田太一氏

5・20 講演会

「21世紀の女性の生き方」

講師 水島広子氏

6・15 講演会「がん治療の現場から」

講師 尾形正方氏

7・1 「ともしび」第32号発行

7・12 観劇会「桂春団治」

新橋演舞場(財務主催)

7・23 見学会 朝倉彫塑館

9・11 講演会「女と男の縁切り作法」

講師 高木 侃氏

10・5 JAUW全国セミナー

6 於・国立女性教育会館

11・6 バスツアー(財務主催)

11・16 講演会「ストレスの生物学」

講師 室伏きみ子氏

12 講演会

講師 青木 保氏

1 新春のつとめ

国内奨学金贈呈式

3・1 「ともしび」第33号発行

英語講座

・第一・第三金曜日

午前十時～十二時

・大久保地域センター三階

・講師・松本節也元法政大学教授

・ロンドン史を原書で購読中(この

後は英国史を予定)講師より送付

される詳細な注釈と、ヒアリング

のためのテープをもとに輪読して

います。

・連絡先・伊藤美美子

(☎〇四六三一九五―四三六四)

楽しい俳句会

・第三水曜日 午後一時半～三時半

・JAUW事務所会議室

・講師・柴崎富子

(俳人協会会員・読売カルチャー

講師)

・数名の余裕があります。

・見学歓迎です。

・連絡先・海老原典子

(☎〇三三三三三三―五〇五六)

源氏物語を読む会(Ⅰ)

・第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

・JAUW事務所会議室

・講師・坂上栄美子

「野分」の巻です。

・連絡先・平田安子

(☎〇四七一―四三一―一五七三)

○源氏物語を読む会(Ⅱ)

・第二・三・四水曜日

午前十時～十二時

・津田同窓会会議室

・講師・坂上栄美子

「須磨」の巻に入りました。

四月は満開の桜のもと、京都北部

源氏物語ゆかりの地を訪ねました。

・連絡先・中山律子

(☎〇三三三三三三―四六二八)

フラワーデザイン

・第三火曜日 午後一時半～三時半

・JAUW事務所会議室

・講師・河井尚子

若干名募集しています。

・連絡先・山崎邦子

(☎〇四五―八八―一九〇〇)

東京漫歩くらぶ

(休会中です)

多彩なサークルで会員が交流を楽

しんでいます。まだ余裕がある所も

ありますので、ご入会希望の方は係

までご連絡ください。

お知らせ

JAUW 全国セミナー

時：2002年10月  
5日(土)～6日(日)  
場所：国立女性教育会館  
(武蔵嵐山)

テーマ  
「女性と情報社会  
―その光と影―」

▼お願い▲

・今年度の会費未納の方はお早めにお振り込みください。また、住所変更や、その他のお知らせは事務所へご連絡をお願いします。

・使用済みの切手、プリペイドカードなど事務所にお送りください。年末、中野盲人自立センターにお届けします。

編集後記

・JAUW事務所に、美しい花が咲きみだれています。といっても、それは写真集の中です。

「水河を彩る花たち」という写真集を根岸愛子さんがご寄付くださいました。売上げはすべて国際奨学金の資金となります。

ぜひお買い求めになつてお花たちにも会ってあげてください。(F)



ともしび 三三三号 発行日 二〇〇二年七月一日

発行 社団法人大学婦人協会東京支部

〒150-8501 新宿区左門町十一番六、一〇一

Tel 〇三三三三三三三―五八二―八八二  
Fax 〇三三三三三三三―五八二―八八九  
印刷 タナカ印刷